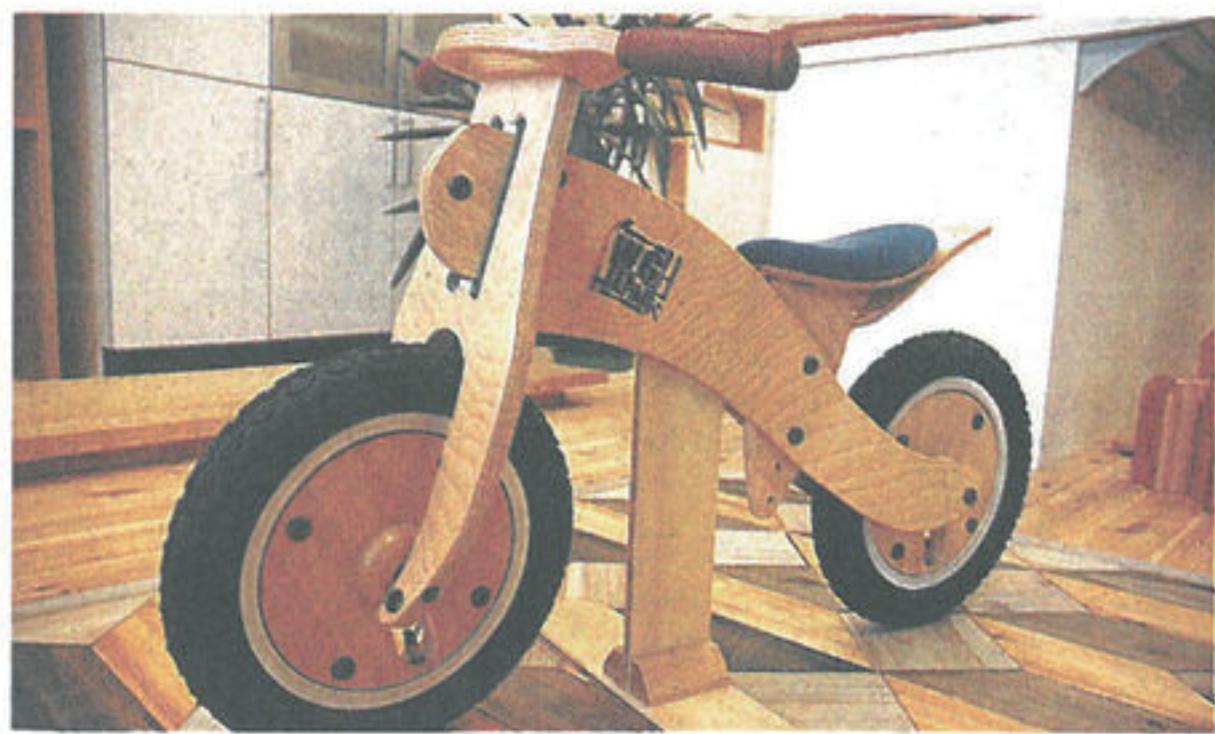


ひつぐあつぶ

三輪車のようだが、どこか違う。ペダルがない。ブレーキもない。それが、木製キックバイク「ゼロワン」だ。

幼児向けの一輪玩具で、地面を足で蹴り、バランスをとりながら走らせる。北欧やドイツでは自転車に乗る練習をするとき、補助輪付き自転車の代わりに使われるという。

「ゼロワン」は全長85センチ、重さ4・2キロ。丈夫で粘りのあるブナ合板を材料にしている。伝統的な「曲げ木」の技法を使つた丸みを帯びたデザインが特徴的な「ゼロワン」



「曲げ木」の技で木製バイク

2009年8月の発売後、約200台を売った。

製作した「ワークス・ギルド

価格は3万8千円（税込み）。

「1万5千円ならもつと売れるに」とも言われるが、「良い体感しつつ、長く受け継いでほしい」と話す。傷んだパーツを交換できるように、デザインは変更しないことにしている。

大野さんが知り合いからキックバイクのことを見聞き、秋田らしさを加えた製品にできないかと考えたのが3年前。曲げ木の微妙なバランスを調整するため、完成まで1年半かかった。

「ゼロワン」の問い合わせは「ワークス・ギルド・ジャパン」（018・880・5145）へ。（岡田昇）